

< 気になるよそ様の数値 2年後の今 >

建設業界の経営環境が厳しいと言われて久しくなります。こんな環境の中では自社の経営も厳しいけれど他社も厳しいのではといういちの望み?を抱きたくもなります。そんな後ろ向きな考えはよくありませんが、他社の動向を冷静に分析することは競争社会に生きる上で大切なことです。そこで、2000年11月のデータと2002年9月のデータを比較してどのように変化しているか見てみましょう。(グラフの拡大図はワイズホームページにてダウンロードできます。 <http://www.wise.co.jp/>)

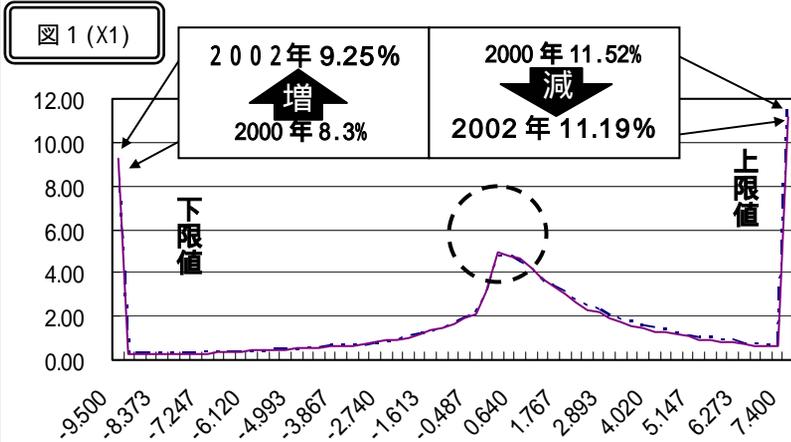
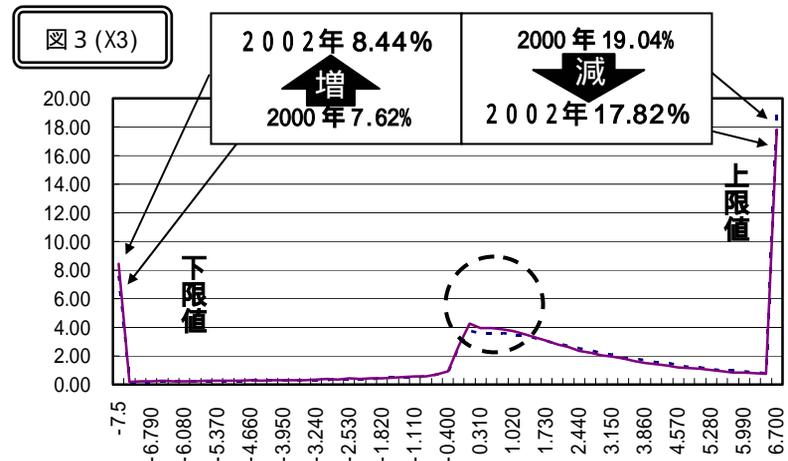
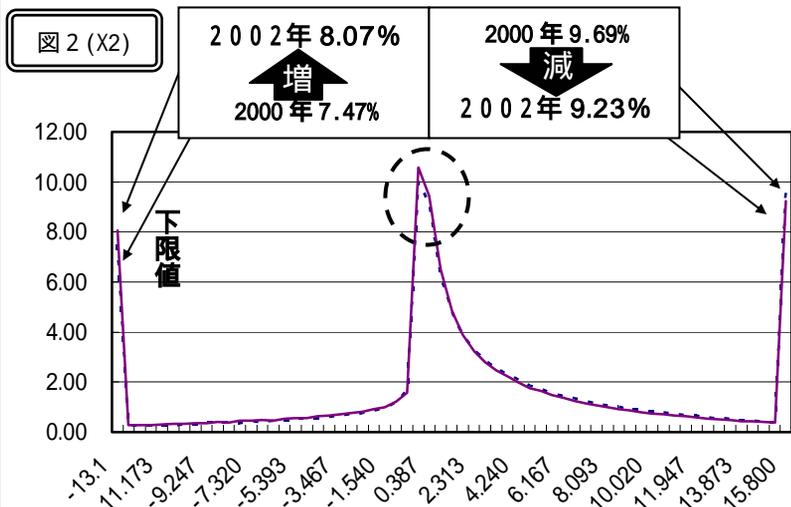


図1は売上高営業利益率(X1)の分布図です。2000年11月のデータは195,842社で2002年9月のデータは218,005社でデータ数が違うので、分布図は全体に占める割合で表しています。

図を見て明らかなように、全体的な傾向に変化はありません。上限、下限と0付近の三つの山があります。図2総資本経常利益率(X2)、図3キャッシュ・フロー対売上高比率(X3)も同じように三つの山があります。

しかし、細部について見ていくと変化がみられます。まず、いずれの指標も下限値の会社の割合が増加し、上限値の会社の割合が減少しています。



X1では下限値の企業数の割合は8.3%から9.25%に、X2は、7.47%から8.07%に、X3は、7.62%から8.44%にそれぞれ増加しています。また、上限値の企業数の割合は、X1では11.52%から11.19%に、X2は、9.69%から9.23%に、X3は、19.04%から17.82%にそれぞれ減少しています。そして、中央の山から右側の企業数の比率、すなわち、経営内容がよい会社の数の割合は、2年前より下がっています。経営環境の厳しさが数値に表れています。

さらに、中央の山が2年前より高くなっているのも特徴のひとつです。収益性の指標では、どの会社も赤字決算は避けたいという気持ちが強く、このように0付近の企業数の割合が増えるのですが、収益性が悪化する中でこうした企業が増加していることがうかがわれます。

現下の厳しい経済環境の中で収益に頼って経営対策をするのは無理があります。貸借対照表でしっかり点数を稼ぎ、余裕を持って対応したいものです。

WISENET編集部 松村 清 (税理士)

入札主観点数にISOが重要?! ワイズ調査の都道府県別対応状況を無料配布中!

- ISO訪問デモ希望(無償)
- ISO資料請求(無償)
- 送信先宛名変更(右欄に変更後の宛名をご記入ください)
- 今後「Wise FAXNET」送信不要
- 今後「Wise FAXNET」メール送信に変更希望

デモ希望、資料請求、送信先宛名変更、送信停止は、必要事項をご記入の上、FAXにて当社までご返送下さい。

FAX.0269-65-4745

資料・デモをご希望の方は、下記にご連絡先をご記入下さい。ユーザー様で前回登録時と変更のない場合には、貴社名と担当者名、TELのみをご記入下さい。

貴社名	
ご担当者様	ご役職・部署名
TEL	FAX
今後メールでの送信をご希望される場合は下記にアドレスをご記入ください。	
e-mail	

「Wise FAXNET」は経営対策/書類作成システム「Wisdom(ウィズダム)」ユーザー様に経営に関する最新情報、経営対策のワンポイントを紹介、月一回の発行となります。内容に関するお問い合わせ、バックナンバーの請求(99年2月号~)は弊社までご連絡下さい。弊社ホームページよりバックナンバーのダウンロードできます(2月号は3月3日より可能)。ログインIDは「1921」です。入力後、[ログイン]ボタンをクリックして下さい。 ワイズホームページ <http://www.wise.co.jp>